

令和2年3月19日

学校法人昭和薬科大学 中期計画（2020～2024年度）

昭和薬科大学は「独立と融和」の建学の精神のもと、「薬を通して人類に貢献」の理念を掲げ、2020年に創立90周年を迎える。本学の目的は「教育基本法及び学校教育法に基づき、広く知識を授け、人格の陶冶に努め、深く薬学に関する学理と技術とを教授研究して、社会有為の人物を育成すること」であり、薬学の進展、文化の興隆、人類の福祉に寄与することを使命としている（学則第1条）。

現在、長期目標として本学は「豊かな人間性を備え、創薬から臨床に至る薬学の幅広い分野で、薬の専門家として活躍できる薬剤師及び薬学研究者を育て、6年制薬学教育と研究をリードする大学になる」を掲げ、社会で活躍するファーマシスト・サイエンティストを多数輩出することを目指している。以下にこの目標を達成するための中期計画をまとめ、教育職員、事務職員が協働して行う。

1. 教育

1-1. 学士課程における教育の質的向上（教務委員会）

- ・ 現行カリキュラムを点検し、社会で活躍する人材輩出のための成果基盤型教育（Outcome-based Education; OBE）に基づく新カリキュラムを編成する。
- ・ 学生の思考時間および学習時間を増大できる仕組みを策定する。
- ・ 多職種連携教育を充実させ、時代の要請に応じた薬剤師輩出のための教育を行う。
- ・ 統合型学修管理システムを導入し、様々なエビデンスに基づいた Institutional Research (IR) の解析を基に、学生の学修への能動的な取り組みを促す。
- ・ Information and Communication Technology (ICT) の活用、アクティブラーニングの導入、教育職員のスキルアップに資する Faculty Development (FD) 等を推進し、学習効果の高い講義の展開を促す。

1-2. 大学院における教育の質的向上（大学院薬学研究科委員会）

- ・ 薬学や医療の進歩・発展を担う高度な研究能力を兼ね備えた人材育成を目指し、研究室配属前の1-2年生を対象とした「研究入門」を編成し、研究室での研究に参加させて研究志向の学生を育成し、大学院進学率の向上を目指す。※
- ・ 連携大学院として、外部の研究機関内に研究室を設置し、学生・教育職員・事務職員の相互交流により、研究指導を行う。

1-3. 入試・学生の受け入れ（入学試験委員会）

- ・ アドミッションポリシーを再検討し、望ましい入学者像を明確にする。
- ・ アドミッションポリシーに合致した入学者を獲得するための入学者選抜（選抜方式、試験内容等）のあり方を検討する。
- ・ 優秀な入学者の獲得を目指した特待生制度や入学者選抜方法を検討する。※
- ・ 受験生、保護者、高校教員等のステークホルダーに有益かつ魅力的な情報を提供するために、広報のあり方を抜本的に見直す。

- ・ オープンキャンパス、ホームページ、広報誌などを充実させ、本学の魅力を広く全国に発信する。

1-4. 学生の支援

- ・ 学生の健康管理に努めるとともに、充実した大学生活を送ることができるための支援体制の整備を教育職員、事務職員、学生（教職学）で推進する。（学生支援委員会）
 - 1) ハラスメントフリーに向けた取り組み
 - 2) スモークフリーキャンパスの実現
 - 3) 保健室・学生相談体制の充実
 - 4) 部活動等課外活動に対する支援の充実
 - 5) 昭葉祭・体育祭のあり方の再検討
- ・ 学生の修学、生活を的確に把握し、相談、支援できるアドバイザー制度の円滑で持続的な実施を目指す。（学生支援委員会）
- ・ 通学バスの運行改善等学生の通学の利便性向上に取り組む。（学生支援委員会）
- ・ 学部学生のための新たな短期国際交流研修プログラムを検討する。（国際交流委員会）
- ・ 学生の主体的な進路選択を支援するため、薬剤師の多岐にわたる職能に対するキャリア形成支援の強化・充実を行う。（就職支援委員会）

1-5. 認証評価により指摘された事項の改善（教務委員会）

- ・ 以下の教育・学習項目について、学習成果の達成度を測定するための指標設定とそれに基づく適切な評価を行う。
 - 1) ヒューマニズム教育・医療倫理教育、コミュニケーション能力及び自己表現能力
 - 2) 実務実習事前学習
 - 3) 問題解決能力の醸成に向けた教育

2. 研究（大学院薬学研究科委員会、事業計画研究ブランド戦略担当）

2-1. 大型プロジェクト助成の採択を目指した昭葉研究ブランド戦略

- ・ 研究室単位で優れた研究を実施すると共に、ドライな研究とウェットな研究を融合するようなメゾ薬学研究拠点を設置する。強力な研究組織に基づく助成金採択を目指し、町田市との連携を深め、地元からブランドアピールを行う。✖

2-2. 他機関との共同研究推進

- ・ 学術協定を締結した外部の研究機関と共同プロジェクトを実施する。

2-3. 若手研究者（教員及び大学院生）の育成

- ・ 優秀若手研究者賞を制定して若手研究者のレベルアップを図り、ひいては本学の研究をより活性化させる。

2-4. 研究力を国内外に示すことのできる大学

- ・ 特色ある研究活動の成果を社会に発信する。
- ・ 若手研究者（教員及び大学院生）の海外留学・学会参加を推進する。

3. 地域連携（地域連携センター）

3-1. 地域における学生の学びの推進

- ・ 学生の地域での多様な学びの機会を創出し、5年後、10年後に目指すべき生活者・医療人の姿に見合う態度やスキルの習得につながるよう体制づくりを進める。
- ・ さがまちコンソーシアムなどの広域連携を活用して、本学の特色を強化できるよう、地域連携の観点から学生主体で情報収集や発信の企画運営を行う。
- ・ 地域連携センターの活動を通して、地域における学生の学びの推進を行う。

3-2. 地域活性化、地域住民の健康・福祉増進への貢献

- ・ 地域連携センターをワンストップ窓口として、新しい連携や協働による活動を展開する。
- ・ 町田市及び東京都住宅供給公社（JKK 東京）との協定に基づき、子育て推進・健康づくりに資する啓発・交流活動をはじめ、官学、官民学のプロジェクトを推進する。
- ・ 町田市の多様な公民のセクターにおける大学の強みの理解を浸透させ、新しい協働事業の展開を推進する。
- ・ 大学施設を活用して、地域住民のウェルビーイングの向上に資する活動を検討し、町田市や地域と連携して実施する。

3-3. 薬剤師の生涯教育強化

- ・ 町田市薬剤師会との連携協定を締結したので、研修講座の開催等の連携活動をより強化する。
- ・ 本学の人材や施設における特色を活かして、薬剤師の多様な学びの機会創出に貢献することを目指す。
- ・ 医師会、歯科医師会とも協定を締結し、さらに民間団体を含む地域の活動者と連携して、薬剤師をはじめ地域人材の生涯学習につながるプログラムを検討する。

4. 施設・設備

4-1. 教育・研究環境の整備

- ・ 研究棟、実習棟、講義棟、本館棟の順に個別エリア（研究室・事務室等）の老朽化した空調設備を順次更新していく。**※（施設課）**
- ・ 各研究室、実習室の老朽化したドラフトチャンバー本体の更新計画を立案し、順次、その附帯する設備を含めて更新していく。**（施設課）**
- ・ コンピューター演習室・学修支援室の全 140 台のパソコンをリプレイスする。サーバーのリプレイスと共に、教育職員、事務職員にメールの適正な使用法を指導する。**※（情報センター）**
- ・ 講義棟の教室およびゼミ室の Audio Visual (AV) 設備を更新する。**（情報センター）**
- ・ ICT 環境を整備して、学内の教育・研究環境のグレードアップを進める。**（情報センター）**

4-2. 日常生活の環境整備 **（施設課）**

- ・ トイレリニューアルは、修学エリアである講義棟を優先し、以降、実習棟、研究棟、本館棟についても順次進めていく。**※**
- ・ 安全性確保のために外壁修繕を計画的に実施中であり、今後実習棟、研究棟の外壁を順次修繕していく。**※**

4-3. キャンパスライフの充実

- ・ 「ひまわり（食堂）」及び「りんどう（喫茶室）」について、現行の混雑状況や学生のニーズを調査し、より良い環境となるように有効なスペースの使用法等を考案しながら室内配置や備品（椅子・テーブル等）の新規入替等を検討する。**（ひまわり、りんどう、すずらんのリニューアル検討会、常任理事会）**
- ・ 食堂や売店の混雑緩和と学生、教育職員、事務職員の利便性向上のために、円滑な支払業務実現

に向けた学内キャッシュレス化を推進する。(ひまわり、りんどう、すずらんのリニューアル検討会、常任理事会)

- ・ 無線 Local Area Network (LAN) アクセスポイントについて、補充すべきエリアに設置すると共に教室内に増設して ICT 環境の整備を支援する。※ (情報センター)

4-4. 学生寮の環境の改善 (常任理事会、学生課)

- ・ なるせ寮の建て替え、改修、管理の在り方を計画・立案し、学習環境、生活環境を整える。

5. 経営・財務 (経理課)

5-1. 経常収支差額のプラスの維持

- ・ 教育研究活動への投資と、中長期的な施設・設備修繕計画を継続実施しつつも、経常収支差額のプラスを維持できる予算編成を行う。また事業活動支出の財務的検証を行い、内容の見直しと支出抑制を進める。※

5-2. 効果的な資産運用

- ・ 現在の分散化した資金運用を今後も継続する。また、金融緩和政策の継続による低金利下においても効果的な資産運用を図る。※

6. 附属高等学校・中学校

6-1. 建学の精神と教育方針等

- ・ 建学の精神：附属校は、学校法人昭和薬科大学が、太平洋戦争の戦禍を受けた沖縄県に私学の特色ある教育を通して人材育成に貢献したいという趣旨で設立した学校である。
- ・ 教育方針：建学の精神に基づき、県内随一の進学校としての実績を維持する観点から、確かな学力と幅広い教養を高める教育、グローバルに活動できるリーダーを育成する教育を施す。

6-2. 附属校の中長期計画

- ・ 学校教育
 - 1) 2022 年度から全面実施される新学習指導要領(高等学校)に基づくカリキュラム編成を行う。※
 - 2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を図っていく。※
 - 3) 教室に電子黒板を導入し、ICT 教育の環境整備を図る。※
 - 4) 進路指導と生徒指導体制の充実を図る。
- ・ 学校組織：新たな時代の要請に応じて教務部、進路指導部、生徒指導部、事務部の職務のあり方を検討する。
- ・ 卒業生との連携：同窓会や校友会等と協力し、周年事業(50 周年記念事業)に向けた連携体制の構築を図る。
- ・ 施設・設備
 - 1) 2016 年に本校舎が全面改築され、グラウンドも新しく整備された。現在、全面改築中の第一体育館が 2021 年に竣工する予定である。※
 - 2) 新しい学務システムの導入が必要であり、それに向けて研究する。

※ 2020 年度より着手することが明らかな項目